

授業科目名 <英訳>	文化行為論 2 A Theories of Cultural Practices 2A				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 田中 雅一					
配当 学年	修士	単位数	2	開講年度・ 開講期	2015・ 前期	曜時限	月2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
分野名	文化人類学										
【授業の概要・目的】											
文化行為論は日常実践に焦点を絞る文化・社会人類学を学ぶ授業である。現代日本社会と世界の諸現象との比較を通じて、自明とされてきた現象や考え方の再考を試みる。今年度は昨年度に引き続きジェンダーとセクシュアリティを扱う。この授業を通じて現代世界における暴力とジェンダー・セクシュアリティとの関係をより包括的に理解できる。											
【到達目標】											
一見普遍的と思われる価値観の相対的な性格、あるいは文化・社会依存的な性格について理解を深め、私たちを取り巻く社会状況についての批判的な視点を獲得する。											
【授業計画と内容】											
最初に現代人類学の状況を概括し、異文化を理解することの意義を考える。その後は、ジェンダー・セクシュアリティと文化とが交錯する領域をテーマとする。 1-3週)文化人類学の変貌、ジェンダーとセクシュアリティの人類学、女性への暴力 4-7週)ジェンダー儀礼： 男子割礼、女子割礼FGM 8-10週)女性への暴力： サティー（寡婦殉死）と名誉殺人、酸攻撃(acid attack) 11-14週)セックスワークと人身売買、結婚 15週)まとめ											
【履修要件】											
文化人類学に関するほかの講義を受けていることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
毎回の小レポートの評価を含む平常点。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 田中雅一ほか編 『ジェンダーで学ぶ文化人類学』（世界思想社） 田中雅一ほか編 『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社） 田中雅一 『癒しとイヤラシ エロスの文化人類学』（筑摩書房） 謝秀麗 『花嫁を焼かないで』（明石書店） 各テーマについては授業中に参考文献を紹介したり、資料を配布する。											
----- 文化行為論 2 A(2)へ続く -----											

## 文化行為論 2 A (2)

### [授業外学習（予習・復習）等]

授業では映像作品の上映や討論が中心となるため、関連する文献や配布資料を授業の前後に読んでおくこと。

### （その他（オフィスアワー等））

使用する映像資料の中には心身にきわめて不快な影響をおよぼすシーンが多出するものも含まれています。鑑賞するかどうか、また上映中の退出は本人の判断に任せます。

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~shakti/> 田中雅一のホームページ

オフィスアワーは特に設けない。問い合わせやアPOINTは [shakti@zinbun.kyoto-u.ac.jp](mailto:shakti@zinbun.kyoto-u.ac.jp) で受けつける。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。